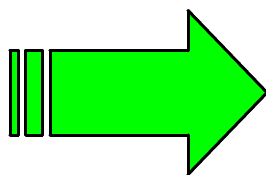


タバココナジラミ・バイオタイプQの薬剤感受性検定

タバココナジラミ・バイオタイプQは、我が国では平成16年に広島県で初めて発生が確認され、その後、西日本を中心に地理的分布を拡大しています。京都府では平成18年に発生を確認し、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するだけでなく、これまでコナジラミ類による被害がそれほど問題にならなかったトウガラシ類で多発しています。薬剤感受性については不明であり、トウガラシ類に登録のある薬剤が少ないことから、微生物剤及び気門封鎖剤を含めた合計46種類の薬剤に対する本種の卵、幼虫及び成虫の感受性を調べています。本試験の結果を参考に、今後は、有効な防除体系の確立ならびに農薬登録に向けての基礎的資料とする予定です。



ポット植えたキャベツ
(品種:おきな)



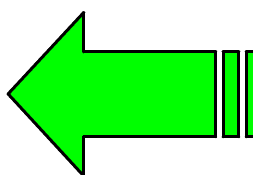
キャベツ葉を試験管に
水挿しし、24時間産卵
(25 15L9D下)



14日後
(3齢幼虫)



羽化個体数(脱皮殻数)を数え、
死虫率を求める



試験管に水挿しして
10日間飼育
(25 15L9D下)



幼虫数を数え、
10秒間薬液に浸漬処理

タバココナジラミ・バイオタイプQの薬剤検定法(キャベツ葉片浸漬法)